

# 岡田県営住宅地域における生活支援サービスについて

## ～ 調査報告と今後の取り組み予定 ～

### 調査結果報告

【目的】 岡田県営住宅地域における生活支援サービスを考えるための現状把握

【手法】 住民懇談会（ブレインストーミング） （※住民の声を聞かせていただくことを重視。）

【対象】 ・ 岡田もくせいハイツ自治会（12/4 実施）  
 ・ 県営寒川もくせいハイツ第二自治会（12/12 実施）  
 →それぞれの自治会長より住民数名（主に自治会役員等）を集めていただいて実施。

【結果】 自治会の運営、災害時、住民同士のコミュニケーション、住民の自主活動による環境整備の取り組み、趣味、ボランティア、必要な情報収集、住民同士の見守り、安否確認、コミュニティバス等、話題は多岐にわたり、現状のお話と今後への期待、希望のお話を伺った。

### 今後の取り組みと予定

今後の取り組みとしては、住民の方との懇談を継続し、課題整理をしたい。そこから、何をどう取り組めるのか、取り組まないのか、住民の方と一緒に判断していくようにしたい。支え合いの仕組みづくりは、時間がかかるので、SCが地域の皆さんの中に溶け込んでいけるように、懇談を通じた信頼関係づくりから行っていきたい。

昨年の懇談会の結果を住民の方と共有する。⇒令和2年度の具体的な予定：4月～ コロナの状況をみながら、自治会役員会への参加を通じSCを知ってもらい、住民同士の懇談会を設定・開催。  
 9月～ 具体的な生活支援サービスの発足の方向性をまとめる。

#### ★懇談会で行いたいこと★

昨年の懇談会での話題を分類した「強み」「弱み」「希望等」を基に、さらに住民の方との共有しながらの検討を行う。懇談会を通じて出てきたキーワード「情報」「コミュニケーション」「通いの場」「役割・生きがい」「介護予防（健康寿命の延伸）」など、それについて、さらに掘り下げ、生活支援サービスの開発につなげたい。また、「社会福祉協議会が取り組んできた集い・交流の場づくり等の取り組みは、個人に対して良い効果＝健康寿命の延伸につながる」（県社協主催研修会 講師説明）ということもキーワードにしていきたいが、コロナとともに、住民主体の支え合い活動にどう取り組んでいけるのか、昨年の懇談会時点とは違う配慮、準備が必要。

- （1）「強み」 … 良い部分を維持、拡大、継続するための方法を考える。
- （2）「弱み」 … 弱みとして見えてきた事項を、担い手ごとに考えてみる（住民、公的サービスなど）
- （3）「希望等」 … 希望等についても、担い手ごとに考えてみる（住民、公的サービスなど）

→今回実施したブレインストーミングのような形式の他、担い手養成のカードゲーム※等、ワークショップ的なことも実施したい。

※さわやか福祉財団「新・助け合い体験ゲーム」

…お互いさまの助け合いをカードを使って疑似体験してもらい、助け合いの楽しさや決して難しい活動ではないということを知ってもらうためのものです。実際に助け合い活動の発足に結び付ける場面でも活用されています。